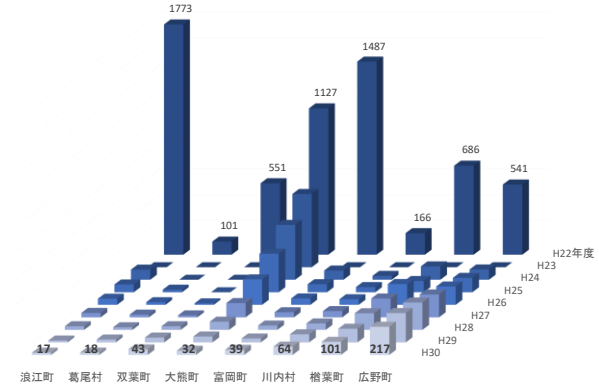


福島県双葉郡の学校の現況

2018年4月現在

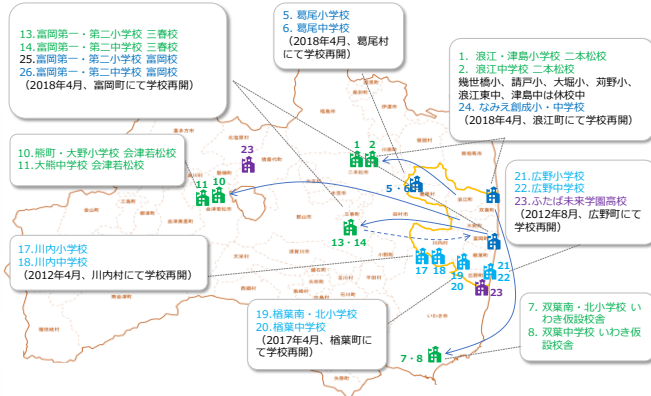
富岡町教育委員会教育長 石井賢一

双葉郡の児童生徒数(6,432名→531名)



浪江町 葛尾村 双葉町 大熊町 富岡町 川内村 楢葉町 広野町
 出所：各町村教育委員会
 ※ 町立学校に所属する小学校児童および中学校生徒の人数合計(各年度4月時点)

各地に避難し再開した双葉郡の学校



福島県双葉郡教育復興ビジョン

子どもたちの“自ら未来を切り拓く力”を育むため、双葉郡の各校でそれぞれの個性を生かしつつ、町村や世代の垣根をこえてつながり双葉郡独自の魅力的な教育をすすめています。

- 1 双葉郡独自の魅力的な教育
- 2 地域や多様な人々との協働
- 3 教育を通じた絆づくり

地域を題材に、8町村でもとに取り組む探究的な学習「ふるさと創造学」や中高一貫校の設立など、次代を生きる子どもたちの学びの場を広げます。

子どもと地域との出会いを大切にします。実践的な学びは地域を勇気づけ、多様な人々との関わりは子どもたちの学びを充実させます。

学校を中心に町村や世代をこえて交流し、未来につながる仲間やコミュニティが生まれます。ふるさとへの誇りを、地域の絆を強くします。

※「福島県双葉郡教育復興ビジョン」は、2013年7月、双葉郡8町村の教育長が中心となって取りまとめた教育復興の方針です(2012年12月より検討開始)。震災後の子どもたちの学びを守りたい、また、被災経験をハンデとせずこの経験乗り越えていってほしいという思いから生まれました。その後、文部科学省や復興庁、福島県教育委員会、福島大学等の協力のもと協議会を立ち上げ、学校や地域と協働してビジョン具現化に取り組んでいます。

8町村で取り組む教育復興

4

「ふるさと創造学」

双葉郡独自の魅力的な教育をカタチにした「ローカルで多様な探究的学び」

ねらい

主体性・協働性・創造性を伸ばし、自ら未来を切り拓く力を育む
(社会では、そのときどきの最適解を求めることが必要)

「知る」 → 「つなげる」 → 「生まれる」

学びを通じて得ばす力

ふるさとへの誇り

内容と活動

- 日常生活や地域社会に目を向け、ふるさとの「ひと」「もの」「こと」を題材とする
- テーマややり方は各校自由。町村(ヨコ)や学年・年齢(タテ)のつながりを生かして連携する
- 総合的な学習の時間を中心に、「探究のプロセス」を発展的に繰り返す活動を基本とする

そもそも子どもはさまざまな力を持っている、という前提に立ち、ひとりひとりが持つ力を発揮しながら学ぶことで成長し、よりよい課題の解決やもっと難しい課題にも挑戦できるようになっていくことを目指している

5

H29各校の取組: 檜葉南・北小学校

「檜葉町の未来が、よりよくなるために」をテーマに、建設予定の『笑(えみ)ふるタウン』のジオラマを製作。ふるさとをつながり、ふるさとを深く理解し、ふるさとを愛する心を育てることをねらいとしています。校内では、取り組んだ6学年が他学年に発表することで、5年生以下の児童の見通しを持たせることにもつながります。

課題設定

木戸八幡神社を見学し、町の歴史と伝統に触れる

神主さんから思いを聞き、課題を設定

情報収集

町のホームページを調べたり、役場の方にヒアリング

町の現状や復興の状況を詳しく知る

整理・分析

アンケートから、町民の思いや願いを整理する

「笑ふるタウン」の計画に、加えたいものを検討

まとめ・表現

「笑ふるタウン」のジオラマを製作

ふるさと創造学サミットでジオラマを展示し思いを発表

6

H29各校の取組: ふたば未来学園高校

演劇創作を通して、地域の現状と課題を多面的に見つめるとともに、グループ活動を行うことによって考えの異なる他者の意見や存在を受け入れられる寛容さを身につけることをねらいとしています。立場の違いによる対立や分断の構造に着目しながら復興の課題について整理し、表現・発信することで、主体性と協働性を養います。

双葉郡バスツアー研修や調べ学習で、取材先を決める

記者によるインタビュー極意の授業

5~6名で一班となり、フィールドワーク実施

平田オリザ氏による演劇指導

表現力やコミュニケーション力を学ぶ演劇授業

完成した演劇の発表。互いに講評し合う

7